

それでは、最後の質問に移ります。

食品ロス削減について。本市のにはま食品ロス削減推進計画の推進施策として、1、食品ロス削減に向けた普及啓発、2、市民・事業者等と連携した取組の推進等が明記されていますが、この推進施策の取組状況及び課題についてお伺いします。

また、食品ロス削減対策の一つとして、食品企業の製造工程で発生する規格外品などを引き取ったり、家庭での在庫食品や未利用食料の寄附を受け、子ども食堂や福祉施設等へ無料で提供するフードバンクの役割が重要であり、今以上に未利用食料の活用を広げることも食品ロス削減に有効ではないかと考えます。

また、推進施策の中で未利用食品等の有効活用として、1、フードバンク活動に関する情報発信と支援、2、フードバンク活動団体と食品関連事業者等との事業連携を支援、3、フードドライブ活動の周知及び取組の支援と明記されていますが、この3項目について取組内容及び課題についてお伺いいたします。

**○副議長（伊藤嘉秀）** 答弁を求めます。近藤市民環境部環境エネルギー局長。

**○市民環境部環境エネルギー局長（近藤淳司）（登壇）** 食品ロス削減についてお答えいたします。

まず、食品ロス削減に向けた普及啓発につきましては、市政だよりやホームページ、SNS、ごみ分別大辞典などを活用し情報発信を行うほか、昨年7月には、リユース、リサイクルに取り組む民間事業者と連携するにいはま3Rネットワークに食品ロス部門を設け、フードドライブに取り組まれている11事業者に登録いただいているところです。

本市における食品ロス削減の取組は一定の広がりを見せておりますが、それらの取組を市民の皆様お一人お一人に認識いただけるよう、さらなる啓発が課題と考えております。

次に、市民・事業者等と連携した取組の推進につきましては、家庭から出されたごみの組成調査結果の周知、生ごみ処理容器の補助やダンボールコンポスト講習会による生ごみの堆肥化推進、また、現在、市内18店舗に登録いただいている、おいしい食べきり運動推進店登録制度の普及拡大に取り組んでいるところでございます。

今年度のごみ組成調査結果では、燃やすごみに占める食品廃棄物の比率は減少傾向ですが、可食部の廃棄比率は増加しており、各御家庭の未利用食品がごみとして出されることを防ぐ取組として、保存方法等を普及啓発するほか、いかにフードドライブ等へつなげていくかが大きな課題であると認識しております。

次に、フードバンク活動に関する情報発信と支援につきましては、フードバンクやフードドライブの認知度向上を図るため、フードバンク団体のシンポジウムを後援させていただくなど、連携した取組を進めているところでございます。

次に、フードバンク活動団体と食

品関連事業者等との事業連携につきましては、事業者、団体による民間主導の取組が主となっておりますが、食品の受入れ、配送、保管にコストを要するため、効率的な流通に向けた団体間のさらなる連携強化が課題とお伺いしております。

次に、フードドライブ活動の周知及び取組の支援につきましては、未利用食品をどこへ持ち込めば有効活用されるのか、にはま３Ｒネットワークを通じて周知しているところでございます。

今後も継続して市民の皆様、関係事業者と連携した食品ロス削減の取組を推進してまいります。

○副議長（伊藤嘉秀） 再質問はありませんか。高塚広義議員。

○１９番（高塚広義）（登壇） 今後ともよろしく願いいたします。

以上で質問を終わります。